

令和7年度 九州看護福祉大学

---

SD・FD 実施報告書

九州看護福祉大学 SD・FD 委員会

# 目 次

|   |    |
|---|----|
| 1. 委員会開催記録                                  | 2  |
| 2. SD・FD研修会                                 | 6  |
| 1) SD・FD研修 実施概要                             |    |
| 2) SD研修プログラム 実施研修一覧                         |    |
| 3) FD研修プログラム 実施研修一覧                         |    |
| 4) 対面SD研修の実施内容・委員長講評                        |    |
| 4-2) 対面FD研修の実施内容・委員長講評                      |    |
| 5) 総評                                       |    |
| 3. アンケート結果                                  | 16 |
| 1) 令和7年度SD研修会に関するアンケート                      |    |
| 2) 令和7年度SD研修プログラム 25-01 “生野先生ご講演 “に関するアンケート |    |
| 3) 令和7年度FD研修会に関するアンケート                      |    |
| 4) 令和7年度FD研修プログラム 25-17 “隅谷先生ご講演 “に関するアンケート |    |
| 4. 令和7年度SD・FD委員会 構成員                        | 42 |

## 1. 委員会開催記録

令和7年度のSD委員会とFD委員会の開催記録を掲載しています。

### 令和7年度 第1回 SD委員会

日時： 令和7年5月12日（月） 14時55分～15時16分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 委員長の選出について
2. 基本方針について
3. 実施報告書の作成について
4. 令和7年度スケジュール確認

### 令和7年度 第1回 FD委員会

日時： 令和7年5月12日（月） 15時20分～15時23分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 委員長の選出について
2. 基本方針について
3. 実施報告書の作成について
4. 令和7年度スケジュール確認

### 令和7年度 第2回 SD委員会

日時： 令和7年6月17日（火） 9時10分～10時05分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 基本方針について
2. 実施報告書の作成について
3. 令和7年度スケジュール確認
4. 今年度のSD研修会について

### 令和7年度 第2回 FD委員会

日時：令和7年6月17日（火）10時07分～10時23分

場所：東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 基本方針について
2. 実施報告書の作成について
3. 令和7年度スケジュール確認
4. 今年度のFD研修会について

### 令和7年度 第3回 SD委員会

日時：令和7年7月8日（火）9時10分～10時03分

場所：東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. SD研修会の実施について

#### 【報告】

1. その他  
(1) Teams の活用について

### 令和7年度 第3回 FD委員会

日時：令和7年7月8日（火）10時05分～10時28分

場所：東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. FD研修会の実施について

### 令和7年度 第4回 SD委員会

日時：令和7年7月29日（火）9時31分～10時43分

場所：東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. SD研修会の実施について

#### 【報告】

1. その他  
(1) 議事録の運用について

#### 令和7年度 第4回 FD委員会

日時： 令和7年8月5日（火） 10時50分～10時39分  
場所： 東ウイング大会議室

##### 【議題】

1. FD研修会の実施について

#### 令和7年度 第5回 FD委員会

日時： 令和7年10月7日（火） 10時50分～11時31分  
場所： 東ウイング大会議室

##### 【議題】

1. FD研修会の実施について

#### 令和7年度 第5回 SD委員会

日時： 令和7年12月19日（金） 10時57分～11時27分  
場所： 東ウイング大会議室

##### 【議題】

1. 令和8年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について
2. 令和8年度SD研修会の実施について
3. 予算案について

#### 令和7年度 第6回 FD委員会

日時： 令和7年12月19日（金） 11時28分～11時48分  
場所： 東ウイング大会議室

##### 【議題】

1. 令和8年度内部質保証推進年間主要スケジュール（案）について
2. 令和8年度FD研修会の実施について
3. 予算案について

#### 令和7年度 第6回 SD委員会

日時： 令和8年1月27日（火） 10時54分～11時21分  
場所： 東ウイング大会議室

##### 【議題】

1. 令和8年度SD研修会の実施について

### 令和7年度 第7回 FD委員会

日時： 令和8年1月27日（火） 11時23分～11時51分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 令和8年度FD研修会の実施について

### 令和7年度 第7回 SD委員会

日時： 令和8年3月10日（火） 16時30分～16時54分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 令和8年度SD研修会の実施について

#### 【報告】

1. Microsoft Forms アンケートについて

### 令和7年度 第8回 FD委員会

日時： 令和8年3月10日（火） 16時56分～17時11分

場所： 東ウイング大会議室

#### 【議題】

1. 令和8年度FD研修会の実施について

#### 【報告】

1. 令和7年度SD・FD研修会アンケートについて

## 2. SD・FD 研修会

### 1) SD・FD 研修 実施概要

#### 【SD研修実施期間】

令和7年 8月 8日（金）～令和8年3月13日（金）

#### 【FD研修実施期間】

令和7年11月17日（月）～令和8年3月13日（金）

#### 【受講方法】

- 対面研修への参加
- 本学職員専用の web ページに掲載のオンデマンド研修動画の視聴

#### 【研修の受講要件】

全職員共通で対面研修は受講必須

- ・教育職員
- SD研修プログラムのうち1つ以上を受講
- FD研修プログラムのうち1つ以上を受講
- ・事務職員及び医療職員
- SD研修プログラムのうち2つ以上を受講

#### 【受講後アンケート】

SD・FD研修の受講後、Microsoft Forms にてアンケート・受講履歴を回答。

※アンケートの回答をもって受講確認、対面研修の出席確認を行っている。

## 2) SD研修プログラム 実施研修一覧

※対象：教育職員、事務職員及び医療職員 【視聴期間～3/14】

| コード   | 形態      | 研修テーマ等 (動画時間)   |  |
|-------|---------|---|--|
| 25-01 | 対面<br>○ | 男女共同参画に関わる政策と暮らしの中のジェンダーバイアス<br>講師：生野 繁子 (九州看護福祉大学 副学長)   |  |
| 25-02 | ○       | リスクマネジメント ～学校の危機をいかに防ぐか～ : 校内研修シリーズNo.4 4 (26 : 29)<br>独立行政法人教職員支援機構                                      |  |
| 25-03 | ○       | リーダーシップとマネジメント : 校内研修シリーズNo.7 5 (23 : 21)<br>独立行政法人教職員支援機構  |  |
| 25-04 | ○       | スクール・コンプライアンス (著作権) : 校内研修シリーズ No. 1 0 5 (22 : 07)<br>独立行政法人教職員支援機構                                       |  |
| 25-05 | ○       | 大学におけるハラスメント防止に向けて<br>文部科学省   | パワーハラスメント/アカデミックハラスメント編<br>(9 : 25)                        |
|       |         |   | セクシュアルハラスメント編 (10 : 24)                                    |
| 25-06 | ○       | 動画で学ぶメンタルヘルス対策 (31 : 48)<br>福島県立医科大学 健康増進センター   |  |
| 25-07 | ○       | 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育<br>システムの再構築～<br>文部科学省   | 1. ポイント説明 (5 : 46)   |
|       |         |   | 2. 全体概要説明 (17 : 57)  |
|       |         |   | 3. 意見・事例発表 (6 : 55) (9 : 10) (5 : 04)                      |
| 25-08 | ○       | 若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修 若年層に有効なSNS相談について<br>① (17 : 46) ② (8 : 23) ③ (11 : 39) ④ (21 : 12)<br>内閣府男女共同参画局 |  |
| 25-09 | ○       | 若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修 こども・若者の性被害の現状と対応<br>～教育現場にむけて～① (17 : 06) ② (18 : 28) ③ (13 : 22)<br>内閣府男女共同参画局  |  |
| 25-10 | ○       | 研究倫理 eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics)<br>[eL CoRE] 日本学術振興会 (本学の不正防止の取り組みにおいて、ご案内している研修です) |  |
| 25-11 | ○       | 大学生の発達障害の理解と対応 (1 : 10 : 25)<br>講師：水間 宗幸 (本学社会福祉学科 専任講師)  |  |
| 25-12 | ○       | 児童生徒への性暴力に関する教育委員会等<br>における取組事例集及び教育職員向け研修用動画<br>文部科学省  | 1. 「教育職員等による児童生徒性暴力等の<br>防止等に関する法律」についての基礎の習得<br>(13 : 34) |
|       |         |   | 2. 生徒の性被害を防ぐために私たちにでき<br>ること ～思考の誤りについて (9 : 58)           |
|       |         |   | 3. 生徒の性被害を防ぐために 私たちにでき<br>ること ～事例から考えよう (13 : 02)          |
|       |         |   | 4. 児童生徒への性加害に どう対応するか<br>ー子供への性暴力を発見したら… (11 : 24)         |
|       |         |   | 5. 児童生徒への性加害に どう対応するか<br>ー子供からの SOS を受けたら… (16 : 25)       |

|       |   |   |  |
|-------|---|---|--|
| 25-13 | O | 障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー<br>独立行政法人 日本学生支援機構  | 1. 総論 (12 : 09)                                  |
|       |   |   | 2. 不当な差別的取扱いの禁止 (11 : 40)                        |
|       |   |   | 3. 合理的配慮の提供 (10 : 06)                            |
|       |   |   | 4. 事前的改善措置 (10 : 17)                             |
|       |   |   | 5. 相談・紛争防止等のための体制整備 (12 : 00)                    |
| 25-14 | O | 現場が動き出す大学教育マネジメント (トップリーダーセミナー) 愛媛大学教育企画室<br>(1 : 34 : 40)<br>講師：畠田 敏行 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 教授)         |  |
| 25-15 | O | 大学のIR (Institutional Research) 入門① (14 : 55) ② (19 : 24) ③ (14 : 06) ④ (12 : 12)<br>講師：竹中 喜一 (近畿大学 准教授) |  |
| 25-16 | O | 生成AIに関する教員向け研修動画シリーズ<br>文部科学省   | 1. 情報活用能力の育成と情報モラル教育を踏まえた生成AIガイドラインの理解 (16 : 11) |
|       |   |   | 2. 生成AIを活用する上での基本的な考え方 (21 : 01)                 |
|       |   |   | 3. 生成AIの性質や限界 (26 : 31)                          |

※実施形態 O:オンデマンド、対面:対面での研修

※25-08、25-09 以外の内閣府男女共同参画局「若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修」動画も本学HPのSD研修プログラム下部にPDFにて掲載しております。

## 【SD オンデマンド型研修の概要説明】

- 25-02：リスクマネジメント ～学校の危機をいかに防ぐか～：校内研修シリーズ No.4 4
  - ・学校の危機をどのように防ぐべきか、リスクマネジメントについて理論的に述べられています。重大問題発生時の対応の一つとして、普段より危機感を共有することで、危機の発生を未然に防止すると説明しています。また、リスク回避の羅針盤として、代表的な判例も紹介しています。
- 25-03：リーダーシップとマネジメント：校内研修シリーズ No.7 5
  - ・「明日から一歩踏み出す」ことを目的として、マネジメントとリーダーシップの機能的な相違点、リーダーシップのタイプと時代による変化を取り上げています。最終的には、自身が属する組織と自分自身の接点を見つけることから、「こうありたい」リーダー像を具体的に描けるような内容です。
- 25-04：スクール・コンプライアンス (著作権)：校内研修シリーズ No.1 0 5
  - ・著作権に関するコンプライアンス事項について、著作権法に基づいた著作者の権利等について解説した後、具体的に学校現場で想定される場面や、授業目的公衆送信補償金制度について、解説しています。
- 25-05：大学におけるハラスメント防止に向けて
  - ・大学生が安心して学習・研究に取り組める環境づくりのために、ハラスメント防止に関する内容です。具体的な事例をもとに分かりやすく解説しています。
- 25-06：動画で学ぶメンタルヘルス対策
  - ・ストレスの予防、適切な対処法を身につけるための動画です。メンタルヘルスに関する現状、ストレスとは何か？ストレスと病気のリスク、予防と改善としてセルフケア、アンガーマネジメントについて学ぶことができます。

- 25-07：我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～
  - ・令和7年2月21日、中央教育審議会総会において、「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」が取りまとめられました。急速な少子化が進む中での高等教育が目指す姿として「知の総和」の向上を掲げ、①教育研究の「質」の更なる高度化、②高等教育全体の「規模」の適正化、③高等教育への「アクセス」確保の観点から審議され、制度改正等の方向性が提言されています。
  
- 25-08：若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修 若年層に有効なSNS相談について
- 25-09：若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修 こども・若者の性被害の現状と対応～教育現場にむけて～
  - ・若年層に対して教育・啓発の機会を多く持つ方や地方公共団体において若年層を対象とした性暴力の予防啓発事業を担当している方が、効果的な予防啓発に必要な知見等を習得できるように作成されています。
  
- 25-10：研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)
  - ・本eラーニングは、研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得が示されています。
  
- 25-11：大学生の発達障害の理解と対応
  - ・大学生の発達障害理解のための基礎的理解と、大学生に見られる具体的な困り感、それに対する支援の考え方について説明します。
  
- 25-12：児童生徒への性暴力に関する教育委員会等における取組事例集及び教育職員向け研修用動画
  - ・児童生徒性暴力とは何かを理解した上で、被害児童生徒・家族、学校現場（管理職、同僚）への影響、加害教員（家族も含め）への影響を踏まえ、児童生徒性暴力防止の重要性を学びます。
  
- 25-13：障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー
  - ・用語解説と紛争の防止・解決等の事例に関する解説を交えて、障害者差別解消法に関する基本的事項について学びます。
  
- 25-14：現場が動き出す大学教育マネジメント（トップリーダーセミナー）  
愛媛大学教育企画室
  - ・SPOD フォーラム 2023（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク：SPOD）の全体テーマ「未来を切り開く力を育成する」の動画講義の一つです。
  
- 25-15：大学のIR（Institutional Research）入門
  - ・大学におけるIR（Institutional Research）について、基礎的な理解を目的とした動画です。全4本で構成されており、いずれも入門編で「IRの定義と意義」、「IRの調査設計とデータ収集」、「分析前準備と分析」、「情報提供から改善への過程」です。
  
- 25-16：生成AIに関する教員向け研修動画シリーズ
  - ・情報活用能力と情報モラルを踏まえたうえでの「生成AI活用のガイドライン」のポイント。生成AI・対話型生成AIを活用する上での基本的な考え方についての内容となっています。

### 3) FD研修プログラム 実施研修一覧

※対象：教育職員 【視聴期間～3/14】

| コード   | 形態      | 研修テーマ等 (動画時間)  |  |
|-------|---------|--|--|
| 25-17 | 対面<br>○ | 大学授業と著作権<br>講師:広島大学 情報メディア教育研究センター 教授 隅谷孝洋/AXIES(大学 ICT 推進協議会)   |  |
| 25-18 | ○       | 生成 AI に関する教員向け研修動画<br>シリーズ<br>文部科学省  | 1. 情報活用能力の育成と情報モラル教育を踏まえた生成 AI<br>ガイドラインの理解 (16 : 11)<br>2. 生成 AI を活用する上での基本的な考え方 (21 : 01)<br>3. 生成 AI の性質や限界 (26 : 31) |
| 25-19 | ○       | 生成 AI の基礎と教育における活用可能性 (46 : 56)<br>文部科学省   |  |
| 25-20 | ○       | シリーズ大学の授業を極める<br>旧関西地区 FD 連絡協議会  | 1. 授業設計<br>① (9 : 03) ② (13 : 26) ③ (9 : 48) ④ (5 : 15)  |
| 25-21 | ○       |  | 2. 講義法<br>① (13 : 16) ② (8 : 29) ③ (10 : 12) ④ (11 : 54)   |
| 25-22 | ○       |  | 3. アクティブラーニング<br>① (14 : 20) ② (13 : 07) ③ (8 : 33) ④ (16 : 12)  |
| 25-23 | ○       |  | 4. 学習評価<br>① (10 : 15) ② (10 : 32) ③ (8 : 14) ④ (7 : 49)   |
| 25-24 | ○       | 生成 AI 利用の本質的理解-大学の授業のために- 愛媛大学教育企画室 (49 : 55)<br>講師:森木 銀河 (九州大学インスティテューショナル・リサーチ室 学術推進専門員)                                     |  |
| 25-25 | ○       | 学生理解と学生発達 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター<br>① (11 : 45) ② (12 : 34) ③ (17 : 59) ④ (21 : 42) ④ (20 : 39)<br>講師:岡田 有司 (東京都立大学 准教授) |  |
| 25-26 | ○       | オンライン授業づくり オンライン授業の設計<br>日本高等教育開発協会<br>講師:佐藤 浩章 (東京大学 教授)  | 1. オンライン授業のデザイン (27 : 55)<br>2. 授業をオンライン化するため 10 のポイント<br>(26 : 08)  |
| 25-27 | ○       | 個人面談のポイント日本高等教育開発協会<br>講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)  | 1. 個人面談の環境づくり (8 : 47)<br>2. 個人面談での話し方 (7 : 04)  |
| 25-28 | ○       | シンク・ペア・シェア (6 : 36)<br>講師:中井 俊樹 (愛媛大学 教授)  |  |
| 25-29 | ○       | 遠隔授業でのアクティブ・ラーニング (12 : 48)<br>講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)  |  |
| 25-30 | ○       | 多人数授業でのアクティブ・ラーニング (11 : 08)<br>講師:上月 翔太 (愛媛大学 講師)   |  |
| 25-31 | ○       | 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」について (41 : 16)<br>文部科学省   |  |

## 【FD オンデマンド型研修の概要説明】

- 25-18：生成 AI に関する教員向け研修動画シリーズ
  - ・情報活用能力と情報モラルを踏まえたうえでの「生成 AI 活用のガイドライン」のポイント。生成 AI・対話型生成 AI を活用する上での基本的な考え方についての内容となっています。
- 25-19：生成 AI の基礎と教育における活用可能性
  - ・「生成 AI・対話型生成 AI について」「対話型生成 AI ができること」「対話型生成 AI を使う上で気を付けること」についての内容となっています。
- 25-20：シリーズ大学の授業を極める 1. 授業設計
- 25-21：シリーズ大学の授業を極める 2. 講義法
- 25-22：シリーズ大学の授業を極める 3. アクティブラーニング
- 25-23：シリーズ大学の授業を極める 4. 学習評価
  - ・ドラマ FD 教材「シリーズ 大学の授業を極める」は 4 つテーマ（授業設計、講義法、アクティブラーニング、学習評価）から構成されており、新任から中堅・ベテラン教員まで、大学での授業の質を高めるために学んでいただける内容になっております。授業に悩みを抱える先生方をはじめ、日ごろの授業を再確認するためにも活用できます。
- 25-24：生成 AI 利用の本質的理解-大学の授業のために-
  - ・「1.生成 AI の基本」「2.テキスト生成 AI の実効性」「3.大学の授業とテキスト生成 AI」についての内容となっています。
- 25-25：学生理解と学生発達
  - ・「汎用適応力の重視」「学習成果への注目」「学習成果研究からの知見」「ニーズと大学教育のミスマッチ」「学習成果の可視化における課題」についての内容となっています。
- 25-26：オンライン授業づくり オンライン授業の設計
  - ・「1.オンライン授業のデザイン」は「インストラクショナルデザインの基本」「授業形式の分類」「授業のデザイン」についての内容となっています。
  - ・「授業をオンライン化するため 10 のポイント」はオンライン授業実践ガイドが掲載されています。ポイントとしては「①現実的にできることを考える」「②学習目標に基づいた授業を設計する」「③コンテンツは細かく分ける」「④学生を巻き込む」「⑤授業のルールを共有する」「⑥すべての学生が参加できるようにする」「⑦練習をして慣れる」「⑧代替手段を考えておく」「⑨心身ともに健康に気をつける」「⑩完璧であろうと思わない」についてです。
- 25-27：個人面談のポイント
  - ・「1. 個人面談の環境づくり」は「個人面談のニーズは高まっている」「個人面談の部屋の確保」「面談場所についての取り決め」「机といすの配置」「時計の配置」「個人県段の環境づくりのまとめ」についての内容となっています。
  - 「2. 個人面談での話し方」は「面談の時の姿勢」「面談での話し方」「ペーシング」「ミラーリング」「個人面談での話し方のまとめ」についての内容となっています。
- 25-28：シンク・ペア・シェア
  - ・段階的に議論させる技法として「Think：考える」「Pair：2人組」「Share：全体共有」について述べられています。「基本的な方法」「ライト・ペア・シェア」「シンク・ペア・スクエア・シェア」「ライト・グループ・シェア」「シンク・ペア・シェア」についての内容となっています。
- 25-29：遠隔授業でのアクティブ・ラーニング
  - ・「遠隔授業での課題」「同期型授業での発問の活用」「同期型授業の協同学習」「オンデマンド型授業における工夫」「パラレルセッション」「遠隔授業でのアクティブ・ラーニングのまとめ」についての内容となっています。

■25-30：多人数授業でのアクティブ・ラーニング

・「学習グループの設定」「小さく始める」「学習活動の指示の一覧化」「小道具の活用」「個人ワークを取り入れる」「多人数授業でも使える技法」についての内容となっています。

■25-31：「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」について

・「1. 生命・医学系指針について」「2. 生命・医学系指針の概要、第1章～第9章」「3. よくあるご質問」「4. 最近の不適合事例について」についての内容となっています。

#### 4) 対面SD研修の実施内容・委員長講評

テーマ：男女共同参画に関わる政策と暮らしの中のジェンダーバイアス

講師：生野繁子（九州看護福祉大学 副学長）

実施日：令和7年9月11日（木）14:30～16:00

##### 《実施内容・委員長講評》

研修では「男女共同参画クイズパネル」、「男女共同参画啓発パネル」を用いることで研修内容がわかりやすいように工夫されていた。「男女共同参画クイズパネル」は8問からなり、身近な男女共同参画についての理解度をチェックするものであった。「男女共同参画啓発パネル」は男女共同参画社会実現のために、「思い込み」ありませんか？” “性別役割分担意識” “男だから女だから” “地域づくり” “女性の登用” “施策・方針決定過程への参画” “ポジティブ・アクション” “ワーク・ライフ・バランス” “進路選択” で構成されており、これらの視点から啓発を促すものであった。

配布された資料には、「ジェンダーとは」「ジェンダーバイアス」「固定的な性別役割分担（業）意識とは」「アンコンシャスバイアスとは」といった知識の提供とともに、講師からの「無意識のジェンダーバイアスが発想の根底にあるのでは？」という問いかけがなされ、研修参加者の意識を揺さぶるものであった。また、まとめにかえて「よりよく自分らしく生きるために」というスライドでは、本研修を受講することにより求められる個人のあり方を提言するもので、研修の意義を確認できるものであった。

参加者からの質問もテーマに即した内容の指摘で、本テーマについての理解を深めるものであった。



## 4-2) 対面FD研修の実施内容・委員長講評

テーマ：大学授業と著作権

講師：隅谷 孝洋（AXIES（大学 ICT 推進協議会）、広島大学 情報メディア教育研究センター）

実施日：令和8年2月25日（水）10:00～11:30

### 《実施内容・委員長講評》

研修は、「著作者の権利」、「著作物」、「著作物の利用」といった大学の授業において教員が知っておくべき内容で構成されていた。当日のパワーポイントを使用した研修内容は、講師の丁寧な説明が行われたことで研修参加者の理解を深めることができていた。また、「すぐわかる著作権と授業」の冊子体が配布されたことで、研修参加者は著作権に関する専門的な用語に関する知識を得て、理解をすることにつながられた。

授業において大切になることは、図表・写真・イラスト等は利用の仕方を確認しておくこと、著作権だけでなく、肖像権・プライバシーの扱いにも注意すること、出典を明記すること、引用と複製の違いを理解しておくことがあげられる。また、教員の授業での教育活動は学生にも影響を与えるものであるため、学生に著作権を意識させる具体的指導を徹底していく必要がある。そのため、冊子体「すぐわかる著作権と授業」は、今後も大いに利活用することで著作権を意識した教材作成と学生への指導が可能になると思われた。

著作権に関しては、授業の中であれば「何でも自由に使える」ということではないので、教員は著作物の利用の仕方について判断ができる必要があり、今回の研修テーマは時宜にかなうFD研修であった。



## 5) 総評

令和7年度のSD・FD研修は、令和6年度から取り組んできた受講率100%を継続することを目指し、また教職員が受講しやすい時期の決定や関心をもって研修に取り組めるようなテーマの選定に尽力した。そのため令和7年度は移行期間と位置づけ、これまでの開催時期であった2月から令和8年は8月に変更し、教職員が研修を受講しやすいようにした。テーマの決定については、年度毎に取り組む“研修テーマ”を設定することにした。

令和7年度はSD研修を令和7年9月、FD研修は令和8年2月に実施した。SD研修のテーマ「男女共同参画」については本学教員の研究を教職員に周知し、理解を深める機会とした。

FD研修はAXIES（大学ICT推進協議会）から講師を派遣していただき実施した。著作権については教育・研究活動における基礎的な知識を理解しておく必要があり、学生に対しては正確な知識を提供する指導が望ましい。今回の研修を第一歩として著作権関連の内容に対し、各教員が理解を深めて欲しいと考えている。総評として、令和7年度の取り組みは例年よりも煩雑な面もあったが、充実した内容の研修が実施でき好評であった。

### 3. アンケート結果

アンケート調査は、Microsoft Form を用いて下記内容にて行われた。

- 1) 令和7年度SD研修会に関するアンケート
- 2) 令和7年度SD研修プログラム 25-01 “生野先生ご講演“に関するアンケート
- 3) 令和7年度FD研修会に関するアンケート
- 4) 令和7年度FD研修プログラム 25-17 “隅谷先生ご講演“に関するアンケート

#### 1) 令和7年度SD研修会に関するアンケート

表 1. 受講者数/受講対象者数/受講率/（受講状況内訳）

|                        |                |
|------------------------|----------------|
| SD研修                   | 142名/142名/100% |
| (1つ受講：15名 2つ以上受講：127名) |                |

※研修の受講要件における内数

一部アンケートの回答がありませんでしたので、受講者数と集計値に差異が生じている箇所があります。

表 2. SD研修受講状況

| SD研修プログラム  | 受講件数(人) |
|--|---------|
| 【対面研修】男女共同参画に関わる政策と暮らしの中のジェンダーバイアス<br>講師：生野 繁子 氏（九州看護福祉大学 副学長） | 142     |
| リスクマネジメント ～学校の危機をいかに防ぐか～<br>校内研修シリーズ No. 44<br>独立行政法人教職員支援機構   | 15      |
| リーダーシップとマネジメント：校内研修シリーズ No. 75<br>独立行政法人教職員支援機構                | 13      |
| スクール・コンプライアンス（著作権）：校内研修シリーズ No. 105<br>独立行政法人教職員支援機構           | 13      |
| 大学におけるハラスメント防止に向けて 文部科学省                                       | 51      |
| 動画で学ぶメンタルヘルス対策<br>福島県立医科大学 健康増進センター                            | 31      |
| 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～ 文部科学省                           | 13      |

|   |    |
|---|----|
| 若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修<br>若年層に有効なSNS相談について<br>内閣府男女共同参画局                        | 7  |
| 若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修<br>こども・若者の性被害の現状と対応 ～教育現場にむけて～<br>内閣府男女共同参画局             | 6  |
| 研究倫理 e ラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE] / 日本学術振興会        | 21 |
| 大学生の発達障害の理解と対応 /<br>講師：本学社会福祉学科 専任講師 水間 宗幸 氏                                      | 19 |
| 児童生徒への性暴力に関する教育委員会等における取組事例集及び教育職員向け研修用動画 / 文部科学省                                 | 4  |
| 障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー /<br>独立行政法人日本学生支援機構   | 5  |
| 現場が動き出す大学教育マネジメント (トップリーダーセミナー) / 愛媛大学教育企画室 講師：独立行政法人<br>大学改革支援・学位授与機構 教授 畠田 敏行 氏 | 5  |
| 大学のIR (Institutional Research) 入門 /<br>講師：近畿大学 准教授 竹中 喜一 氏                        | 13 |
| 生成AIに関する教員向け研修動画シリーズ<br>文部科学省   | 35 |

表3. 現在の動画コンテンツの数について

| 設問内容   | 回答者数(人) |
|--------|---------|
| ①多い    | 5       |
| ②やや多い  | 31      |
| ③普通    | 103     |
| ④やや少ない | 0       |
| ⑤少ない   | 0       |

表 4. 視聴しやすい動画の長さについて

| 設問内容    | 回答者数(人) |
|---------|---------|
| ①1 時間以上 | 1       |
| ②1 時間   | 39      |
| ③30 分   | 80      |
| ④15 分   | 16      |
| ⑤15 分以下 | 3       |

表 5. 今後の動画で視聴したいSD研修テーマについて

| NO |  |
|----|--|
| 1  | 「エビデンス」を「臨床の知」に変える教育   |
| 2  | ハラスメントに関する研修(無自覚のハラスメントをしている行為者に響く内容がいかと思います。自身のストレスに向き合いセルフケアが大事であることが伝わるような内容感情的になりそうな時の対処方法等ハラスメントが組織に与える影響をきちんと知ることが必要だと思います。) |
| 3  | キャリア支援に関する内容(障がい者支援も含め支援方法など)  |
| 4  | 大学職員向け研修～Z世代の学生にあわせた関わり方と広報活動を考える<br>事務職のための業務改善研修～電子データのファイリング編   |
| 5  | SNSトラブルと学生支援、性暴力   |
| 6  | 生成 AI の活用について (重複回答有)  |
| 7  | LGBTQ+について(重複回答有)  |
| 8  | アカデミックハラスメントについて   |
| 9  | アンガーマネジメントについて   |
| 10 | グレイゾーンの学生に対する対応など  |
| 11 | クレーム対応について   |
| 12 | コロナ世代の学生の教育支援<br>他大学における多職種連携教育の実践例  |
| 13 | コロナ対策でマスク着用や黙食を強要された子供達についてその後の発達にどのような影響がみられるのか。  |
| 14 | スクールコンプライアンス AI に関すること研究倫理に関すること   |
| 15 | デジタルリテラシーの向上 ダイバーシティ&インクルージョンの問題点  |
| 16 | ハイリスク学生(自殺リスク・精神的不調)の早期発見と対応複雑性 PTSD やトラウマを抱える学生支援発達障害・グレイゾーン学生への対応クレーム・困難事例(保護者対応を含む)への対応力向上等                                     |
| 17 | ハラスメントに関すること(重複回答有)  |

|    |  |
|----|--|
| 18 | メンタルヘルスについて(重複回答有)   |
| 19 | モチベーションマネジメント  |
| 20 | リーダーシップとマネジメント   |
| 21 | ワークライフバランス   |
| 22 | 医学的な視点から発達障害の学生の指導方法   |
| 23 | 科研費について  |
| 24 | 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)のような文部科学省等の国の動向が分かりやすいテーマが増えると良いなと感じました。 |
| 25 | 会議運営の改善  |
| 26 | 学校と法律  |
| 27 | エビデンスに基づく授業改善  |
| 28 | 学生の学修成果と自己点検・評価について  |
| 29 | 学生の傾向や対応法についてメンタルヘルス教育   |
| 30 | 学生の自己肯定感の育み方など。  |
| 31 | 教育 DX について   |
| 32 | 教育倫理について   |
| 33 | 教学における IR の活用方法  |
| 34 | 教職課程事務   |
| 35 | 業務効率の向上を目的とした業務改善研修  |
| 36 | 研究倫理(重複回答有)  |
| 37 | 個人情報保護や肖像権について   |
| 38 | 公立大学法人について(重複回答有)  |
| 39 | 効率的な仕事の進め方   |
| 40 | 合理的配慮について(重複回答有)   |
| 41 | 産学官連携  |
| 42 | 自己肯定感研修  |
| 43 | 授業改善(学生の授業参加意欲の継続)につながる動画他大学と差別化できる教育課程編成の実現に向けた動画などがあれば受講してみたい。           |
| 44 | 性的マイノリティに関する研修会を受講させていただきたいです。(カミングアウトを受けたときの対応法や当事者への配慮など)                |
| 45 | Word、Excel の効率的な使い方(時短テクや Excel の新関数など)                                    |
| 46 | 組織の心理的安全性の作り方  |
| 47 | 対象の年代別で指導方法の変化のさせ方について   |
| 48 | 退学する学生への支援   |

|    |  |
|----|--|
| 49 | 大学における保護者への対応について(緊急時の対応連絡問題が起こったときの大学としての対応など)  |
| 50 | 大学マネジメント学生支援                                     |
| 51 | 大学運営に関する関係法令について                                 |
| 52 | 大学業務におけるDX化の導入事例                                 |
| 53 | 大学経営の在り方   |
| 54 | 大学広報について(重複回答有)                                  |
| 55 | 大人の発達障害の方との接し方                                   |
| 56 | 地域連携に関するテーマ                                      |
| 57 | 著作権に関する内容  |
| 58 | 内部統制システム   |
| 59 | 保護者や生徒とのコミュニケーション研修大学経営戦略に関する講演DX推進であらゆる業務を効率化する |

表6. 研修を受講しやすい時間、時間帯について

| NO |  |
|----|--|
| 1  | 11月～12月  |
| 2  | 1年間を通して受講できますので時期の要望はありません。時間帯は午前中が受講しやすいです。   |
| 3  | 5時間目かWEB   |
| 4  | 6月から3月までの実習中は対面の研修は困難です(年度ごとにスケジュールが異なるため受講しやすい時期は不明です)。しかし受講必須の研修であれば5限目以降の時間帯であれば可能です。   |
| 5  | 9月上旬から動画についても受講できるとありがたいです。また今年度は時期の問題ではなくそもそも業務量と人員配置の問題で受講が難しかったです。  |
| 6  | 8月の定期試験後の日程や8月下旬も候補日程として挙げていただけますと幸いに存じます。9月は追再試験期間も入っておりその後はオリエンテーションや授業も始まっていくため授業準備の確保もしたいと思っておりますしまたまとまった期間で資料収集などの研究活動も行っていったというのが理由です。 |
| 7  | ほとんどの大学での正規の講義が始まる前が良いと思います。例えば8月17日から8月31日くらいでしょうか。年度が変わる3月末は忙しい先生が多いと思います。   |
| 8  | 学生の長期休業期間(重複回答有)   |
| 9  | 現行で結構です。(重複回答有)  |

|    |   |
|----|---|
| 10 | 講義や実習のない2～3月の期間に開催されると出席しやすいです。時間帯は早めに案内をいただくと日程調整しやすいです。     |
| 11 | 時期 4～8月<br>9月以降は入試準備がありなかなか時間が取れないため。(重複回答有)                  |
| 12 | 時期:8月1～2月 時間帯:14:30以降<br>※夏休み・春休み中で学生対応が少なくまた就職関連の行事が少ないため    |
| 13 | 実習に出ている期間は参加が難しいためオンデマンドで受講できればいい                             |
| 14 | 実習期間外(重複回答有)  |
| 16 | 昼休みが一番柔軟に対応できる  |
| 17 | 必修の研修を廃止する。もしくは必修の研修を設定するのであれば早い時期に開講しいつでもオンデマンドで見れるようにしてほしい。 |

表7. 今後のSD研修会の実施形態について要望・意見

| NO |   |
|----|---|
| 1  | オンデマンドがよい(重複回答有)  |
| 2  | オンデマンド型が多いので対面研修も増えるといいなと思います。  |
| 3  | オンデマンド型を多数準備してあるため受講しやすかったです。これからも継続していただくと助かります。   |
| 4  | オンデマンド研修は数を減らしてよいかと思います。  |
| 5  | ハイブリッド方式が理想です。(重複回答有)   |
| 6  | マイクロラーニング(超短時間・随時視聴型)   |
| 7  | みんなを守るメンタルヘルスケアについて学びたい。またはアサーションアサーティブなコミュニケーションなど。  |
| 8  | もし可能であれば対面型の日程をできるだけ早く(5月か6月初旬頃)に教えていただけますと幸いに存じます。夏季休暇中に多くの研究会や学会事務局のミーティング日程調整自身の研究のための資料収集などの予定を組みたいのですが(研究の内容の特性上飛行機や宿を早目にとる必要が出てくるため)直前になってから対面開催の日程をお知らせいただくことになると出席できない場合も今後出てくる可能性がございます。日程をお知らせいただく時期につきましてご検討いただければと思います。 |
| 9  | 現状の内容で満足しています。  |
| 10 | 講義や実習で研修に参加できない場合があるので動画視聴はとても助かります。しかし長時間のものは集中できないことがありますので15分～30分程度のものがよいです。   |
| 11 | 今後も対面研修については動画で後日視聴できるようお願いします。   |

|    |  |
|----|--|
| 12 | 実施形態にはこだわらない   |
| 13 | 対面型希望(重複回答有)   |
| 14 | 受講の動画が長くなりすぎないほうが隙間時間で受講しやすかったです。  |
| 15 | 対面型研修ひとつとオンデマンド研修ひとつを受講する形態で問題ありませんがオンデマンド研修のコンテンツも今の複数のコンテンツから個人で選択する形ではなくテーマに沿って委員会でひとつに絞る方法でもいいのではないかと思います。 |
| 16 | 動画を見ていない教員に動画に関するアンケートは意味がないように思われますので動画を視聴したかで次の質問が変わるようにしてはいかがでしょうか。   |
| 17 | 必要性が高い講座は複数年利用を念頭にしても良いかと思います。   |
| 18 | 複数回行ってほしい<br>センターは常時2名なので1人しか受講できない(電話対応など留守にできない)   |
| 19 | 本音は対面を増やしていただきたいですが、そうもいかないのも理解しております。現行でよいと思います。  |

## 2) 令和7年度SD研修プログラム 25-01 “生野先生ご講演“に関するアンケート

表 8. 受講方法について

| 設問内容            | 回答者数(人) |
|-----------------|---------|
| ①9月11日(木)に対面で受講 | 77      |
| ②オンデマンド版で受講     | 63      |

表 9. 研修会のテーマについて

| 設問内容  | 回答者数(人) |
|-------|---------|
| ①満足   | 97      |
| ②やや満足 | 28      |
| ③普通   | 15      |
| ④やや不満 | 0       |
| ⑤不満   | 0       |

表 10. 講演の分かりやすさについて

| 設問内容       | 回答者数(人) |
|------------|---------|
| ①非常にわかりやすい | 75      |
| ②わかりやすい    | 56      |
| ③普通        | 9       |
| ④わかりにくい    | 0       |
| ⑤非常にわかりにくい | 0       |

表 11. 講演の時間について

| 設問内容    | 回答者数(人) |
|---------|---------|
| ①非常に長い  | 3       |
| ②長い     | 17      |
| ③ちょうどよい | 120     |
| ④短い     | 0       |
| ⑤非常に短い  | 0       |

表 12. 講演内容の有益性について

| 設問内容       | 回答者数(人) |
|------------|---------|
| ①非常に有益     | 48      |
| ②有益        | 59      |
| ③普通        | 33      |
| ④あまり有益ではない | 0       |
| ⑤有益ではない    | 0       |

表 13. 「講演内容の有益性について」非常に有益、有益を選択した方は具体的にどのような点が有益だったか

記述内容を集約した結果、以下の内容に類別できた。( )内は件数で、総計 90 件だった。

| NO |                                       |
|----|---------------------------------------|
| 1  | 無意識のジェンダーバイアス・アンコンシャスバイアスへの気づき (28 件) |
| 2  | 自分自身を振り返る機会になった (20 件)                |
| 3  | ジェンダーや男女共同参画への理解が深まった (13 件)          |
| 4  | 具体例が分かりやすく実践的だった (8 件)                |
| 5  | 社会の変化・時代背景への理解 (8 件)                  |
| 6  | 教育・授業・学生対応への活用につながる (6 件)             |
| 7  | ワーク・ライフ・バランス／制度面への関心 (3 件)            |
| 8  | 講師・講演そのものへの評価 (3 件)                   |
| 9  | その他・異なる意見 (1 件)                       |

表 14. 今後対面で受講してみたい SD 研修会のテーマについて

| NO |  |
|----|--|
| 1  | (職場ストレス等に伴う)精神疾患と薬物療法の現状                 |
| 2  | 「日本の食品添加物の危険性」:職員や学生を守るために必須の知識だと考えています。 |
| 3  | 地域貢献に関すること<br>著作権に関すること                  |
| 4  | 教職員自身のメンタルヘルスについて、職場コミュニケーション(アサーション)    |
| 5  | 内部統制に関すること                               |
| 6  | AI 活用の留意点を体験的に学びたい(重複回答有)                |
| 7  | DX 推進に関すること(重複回答有)                       |
| 8  | ICT 教育(重複回答有)                            |
| 9  | IR 関連                                    |
| 10 | LGBTQ+                                   |

|    |  |
|----|--|
| 11 | TSMC の進出による熊本県の環境への影響について  |
| 12 | アサーティブコミュニケーション研修～自他尊重のスタンスで言いにくいことを伝える  |
| 13 | アンガーマネジメントに関する研修   |
| 14 | カスハラなど、過剰な要求に対する対応   |
| 15 | コーチングについて  |
| 16 | コロナ世代の学生の教育支援<br>他大学における多職種連携教育の実践例  |
| 17 | コンプライアンスに関する研修   |
| 18 | ジェンダーバイアスに関し、今回はスキル向上を目的に、ロールプレイングを取り込んだ研修   |
| 19 | ストレスマネジメント(重複回答有)  |
| 20 | デジタルトランスフォーメーションを活用した業務改善  |
| 21 | ハイリスク学生(自殺リスク・精神的不調)の早期発見と対応、複雑性 PTSD やトラウマを抱える学生支援、発達障害・グレーゾーン学生への対応、クレーム・困難事例(保護者対応を含む)への対応力向上 |
| 22 | ハラスメントに関すること(重複回答有)  |
| 23 | メンタルセルフマネジメント  |
| 24 | メンタル不調学生との“ちょうどいい距離感”の取り方  |
| 25 | ワークライフバランスについて(重複回答有)  |
| 26 | 介護や看護におけるジェンダーに関する問題   |
| 27 | 学生からの相談や大学への要望について最近の動向や他大学の取組みを知りたいと思います。   |
| 28 | 学生対応に活用できるもの   |
| 29 | 学内で発生しそうな緊急対応方法について学ぶのもいいかと思う、災害、大雨、てんかん発病、オーバードーズなど   |
| 30 | 学内の先生方で地域貢献や特色のある研究をされている方による研修を企画していただけると嬉しいです  |
| 31 | 管理職対象のハラスメント   |
| 32 | 教育・研究支援、地域貢献、大学行政、文部科学省等の国の動向など  |
| 33 | 教職員の連携   |
| 34 | 教職課程事務   |
| 35 | 傾聴力、判断力、対話力、共感力などの能力向上を目指す研修   |
| 36 | 研究倫理   |
| 37 | 現在の義務教育の現状   |
| 38 | 個人情報や肖像権に関すること   |
| 39 | 公立化に関する内容(重複回答有)   |

|    |   |
|----|---|
| 40 | 合理的配慮に関する研修(重複回答有)  |
| 41 | 災害時の福祉避難所の運営について  |
| 42 | 昨年と重なる部分もありますが、学生のメンタルヘルスに関して、学生の最近の状況、病院等とどのような連携をしているか・どのように連携していくべきか、親(保証人)の方との連絡・かかわり等について、より詳しい研修を受けてみたいと思っています。 |
| 43 | 職員の意識改革(重複回答有)  |
| 44 | 組織の心理的安全性の作り方   |
| 45 | 性的マイノリティに関する研修会を受講してみたいです。  |
| 46 | 他大学の先生方の講演を聴きたい   |
| 47 | 大学での教育の方法の種類と特徴など   |
| 48 | 大学における学生のメンタルヘルス支援体制および自殺予防・復学支援を含めた組織的対応に関するSD研修。大学組織におけるハラスメント防止および心理的安全性の高い職場環境づくりに関するSD研修。                        |
| 49 | 大学における学生指導・授業管理。小中高校に求められる生徒指導と同様の課題が、大学にも引き続き持ち込まれる時代だと思います。同様に保護者・家庭への対応。小中高校と同じく、家庭内葛藤・家族病理が大学を舞台に問題が表出するケースがあります  |
| 50 | 大学教員の労働の在り方、待遇等(重複回答有)  |
| 51 | 大学周辺や地域についての歴史や地域活動に関する内容   |
| 52 | 大学評価と内部質保証について  |
| 53 | 地域貢献、産学官連携について  |
| 54 | 地域貢献活動に積極的に取り組んでいる大学の事例等について  |
| 55 | 著作権に関するもの(重複回答有)  |
| 56 | 発達障害について(重複回答有)   |
| 57 | 勉強意欲のない学生への支援   |
| 58 | 法律に関連したテーマを希望します。   |
| 59 | 有効的な広報手段等に関係する研修会   |
| 60 | 臨地実習指導について。   |

表 15. その他要望・ご意見について

| NO |  |
|----|--|
| 1  | オンデマンド配信予定は早めにお知らせを頂ければと思います                   |
| 2  | 女性視点のジェンダーの話が大半のような気がしたので、男性視点からの話も聞いてみたいと思った。 |
| 3  | 対面形式の研修が頭に入りやすかった。また次年度の研修を積極的に受けたい。           |

### 3) 令和7年度FD研修会に関するアンケート

表 16. 受講者数/受講対象者数/受講率/ (受講状況内訳)

|                       |              |
|-----------------------|--------------|
| FD研修                  | 84名/84名/100% |
| (1つ受講：19名 2つ以上受講：65名) |              |

※研修の受講要件における内数

一部アンケートの回答がありませんでしたので、受講者数と集計値に差異が生じている箇所があります。

表 17. FD研修受講状況

| FD研修プログラム   | 受講件数(人) |
|---|---------|
| 【対面研修】大学授業と著作権<br>講師：広島大学 情報メディア教育研究センター<br>教授 隅谷 孝洋 氏/AXIES (大学 ICT 推進協議会)           | 84      |
| 生成 AI に関する教員向け研修動画シリーズ/<br>文部科学省  | 32      |
| 生成 AI の基礎と教育における活用可能性/文部科学省   | 21      |
| シリーズ大学の授業を極める 1. 授業設計/<br>旧関西地区 FD 連絡協議会  | 8       |
| シリーズ大学の授業を極める 2. 講義法/<br>旧関西地区 FD 連絡協議会   | 7       |
| シリーズ大学の授業を極める 3. アクティブラーニング/<br>旧関西地区 FD 連絡協議会  | 6       |
| シリーズ大学の授業を極める 4. 学習評価/<br>旧関西地区 FD 連絡協議会  | 5       |
| 生成 AI 利用の本質的理解-大学の授業のために-/<br>愛媛大学教育企画室 九州大学インスティテューショナル・<br>リサーチ室 学術推進専門員 講師：森木 銀河 氏 | 9       |
| 学生理解と学生発達/東北大学高度教養教育・学生支援<br>機構 大学教育支援センター 講師：東京都立大学<br>准教授 岡田 有司 氏                   | 8       |
| オンライン授業づくり オンライン授業の設計/日本高<br>等教育開発協会 講師：東京大学 教授 佐藤 浩章 氏                               | 8       |
| 個人面談のポイント/<br>日本高等教育開発協会 講師：愛媛大学 上月 翔太 氏  | 6       |

|   |    |
|---|----|
| シンク・ペア・シェア／<br>講師：愛媛大学 教授 中井 俊樹 氏         | 6  |
| 遠隔授業でのアクティブ・ラーニング／<br>講師：愛媛大学 講師 上月 翔太 氏  | 4  |
| 多人数授業でのアクティブ・ラーニング／<br>講師：愛媛大学 講師 上月 翔太 氏 | 10 |
| 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」について 文部科学省     | 17 |

表 18. 現在の動画コンテンツの数について

| 設問内容   | 回答者数(人) |
|--------|---------|
| ①多い    | 3       |
| ②やや多い  | 14      |
| ③普通    | 65      |
| ④やや少ない | 0       |
| ⑤少ない   | 0       |

表 19. 視聴しやすい動画の長さについて

| 設問内容    | 回答者数(人) |
|---------|---------|
| ①1 時間以上 | 0       |
| ②1 時間   | 32      |
| ③30 分   | 40      |
| ④15 分   | 8       |
| ⑤15 分以下 | 2       |

表 20. 今後の動画で視聴したいFD研修テーマについて

| NO |   |
|----|---|
| 1  | AIに関する研修(重複回答有)                                     |
| 2  | ICTを活用した講義の実験について(重複回答有)、講義形態、講義の分類など、講義特性対応した内容のFD |
| 3  | アクティブラーニングについて(重複回答有)                               |
| 4  | オンラインでの授業設計について                                     |
| 5  | ハラスメントについて(重複回答有)                                   |
| 6  | ラーニングコモンズの立ち上げ運営                                    |

|    |  |
|----|--|
| 7  | わかりやすい・聞きやすいプレゼンについて、スライド作成例など、漠然としたものではなく具体的な方法を教えていただきたいです。                                  |
| 8  | 愛着障がいについて  |
| 9  | 演習などにおいて、グループでの話し合いや発表が苦手という学生も含めて、グループでの学びをどのように深めるか。   |
| 10 | 科研費獲得のための申請書作成術  |
| 11 | 学生の授業に対する価値観とやる気を出す指導について  |
| 12 | 学生の抱える多様な課題とその背景の理解  |
| 13 | 学生への注意の仕方、注意したことで生じるトラブルへの対応。  |
| 14 | 教育評価(ルーブリック評価)の作成について(重複回答有)   |
| 15 | 教員から学生へのハラスメント、合理的配慮に関する対応   |
| 16 | 研究倫理(重複回答有)  |
| 17 | 現場におけるデータサイエンスの応用<br>Microsoft365 を用いた高等教育<br>Microsoft365 における copilot の利活用                   |
| 18 | 効果的な授業設計   |
| 19 | 国家試験指導のポイントについて  |
| 20 | 著作権に関する研修の第2弾を希望します。(重複回答有)<br>・オンデマンド型授業におけるパラレルセッションの具体的な方法例<br>・ピア・インストラクションの具体的な方法例        |
| 21 | 災害対策   |
| 22 | 統計学に関する講義  |
| 23 | 発達特性がある学生のうち、支援につながりづらい学生への対応方法  |
| 24 | 保健医療系大学生の近年の動向、学修成果の可視化・評価・ルーブリック、共通ルーブリックの作成方法、看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく科目マッピングの方法、実習困難学生への教育的支援 |
| 25 | 臨床実習実例を用いたルーブリック作成<br>臨床実習記述的評価とフィードバックの質向上  |

表 21. 研修を受講しやすい時間、時間帯について

| NO |              |
|----|--------------|
| 1  | 1 月          |
| 2  | 3 月末         |
| 3  | 5 時間目か WEB   |
| 4  | 夏休み時期(重複回答有) |

|    |  |
|----|--|
| 5  | 現在の時期でよい(重複回答有)  |
| 6  | 講義・実習のない期間 2～3月が出席しやすい。(重複回答有)<br>時間帯は開催日程を早めにご案内いただければスケジュールを調整しやすい。                        |
| 7  | 実習期間以外でないと出席が難しい   |
| 8  | 春期・夏季休暇(重複回答有)   |
| 9  | 昼休み  |
| 10 | 必修研修をなくす。もしくは、必修を作るのであれば早めに開講し、オンデマンドをいつでも見れるようにしてほしい。<br>対面必修が遅く、その後実習期間中のため、指定期日までに見るのが難しい |
| 11 | 夜8時以降の受講ができるのが理想です。よろしく願い致します。   |

表 22. 今後のFD研修会の実施形態について要望・意見

| NO |  |
|----|--|
| 1  | 3月末まで視聴できるようにしてほしい。12月～3月は実習中であることや実習終了後の会議、試験、面談等々あり、タイトなスケジュールであるため今回視聴し選択した内容を間違っているかもしれませんのでご了承ください。自分が視聴した履歴を確認できると非常にたすかりますが・・・ご検討よろしく願いいたします。 |
| 2  | FDの対面型に出席できない場合のために、オンデマンドをお願いしたいです。また、対面の研修時間について、内容にもよりますが、90分間ではやや短いと思うことがあります ICTを活用した講義の実験について、講義形態、講義の分類など、講義特性対応した内容のFD。                      |
| 3  | ICTを活用した講義の実験について、講義形態、講義の分類など、講義特性対応した内容のFD   |
| 4  | アンケートフォームは回答してもしていないとなったりと不安定なので、そこは改善してほしい。   |
| 5  | オンデマンド型は教員個々の空き時間を活用し視聴できるので助かります。(重複回答有)  |
| 6  | どの研修会も自分にとって必要性の高い内容でありながら、視聴期間内に動画を拝見できないことが続いてしまい、申し訳なく感じております。来年度は、動画の視聴期間をしっかりと意識し、できる限り多くの研修を受講できるよう努めたいと考えております。                               |
| 7  | 現在の様に、対面とオンデマンド併用がいいと思います(重複回答有)   |
| 8  | 対面型(重複回答有)   |
| 9  | オンデマンド型が良いです。(重複回答有)   |
| 10 | 対面型での実施日に参加できない場合もあるので、オンデマンド型も実施していただきたいです。   |

#### 4) 令和7年度FD研修プログラム 25-17 “隅谷先生ご講演 “Iに関するアンケート

表 23. 受講方法について

| 設問内容            | 回答者数(人) |
|-----------------|---------|
| ①2月25日(木)に対面で受講 | 49      |
| ②オンデマンド版で受講     | 34      |

表 24. 研修会のテーマについて

| 設問内容  | 回答者数(人) |
|-------|---------|
| ①満足   | 49      |
| ②やや満足 | 23      |
| ③普通   | 11      |
| ④やや不満 | 0       |
| ⑤不満   | 0       |

表 25. 講演の分かりやすさについて

| 設問内容       | 回答者数(人) |
|------------|---------|
| ①非常にわかりやすい | 42      |
| ②わかりやすい    | 29      |
| ③普通        | 11      |
| ④わかりにくい    | 1       |
| ⑤非常にわかりにくい | 0       |

表 26. 講演の時間について

| 設問内容    | 回答者数(人) |
|---------|---------|
| ①非常に長い  | 3       |
| ②長い     | 16      |
| ③ちょうどよい | 63      |
| ④短い     | 1       |
| ⑤非常に短い  | 0       |

表 27. 講演内容の有益性について

| 設問内容       | 回答者数(人) |
|------------|---------|
| ①非常に有益     | 40      |
| ②有益        | 28      |
| ③普通        | 15      |
| ④あまり有益ではない | 0       |
| ⑤有益ではない    | 0       |

表 28. 「講演内容の有益性について」非常に有益、有益を選択した方は具体的にどのような点が有益だったか

記述内容を集約した結果、以下の内容に類別できた。( )内は件数で、総計 55 件だった。

| NO |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | 授業・教育現場での著作権理解の向上 (16 件)        |
| 2  | 曖昧だった点・疑問・誤解の解消 (13 件)          |
| 3  | 著作権意識・コンプライアンス意識の向上 (9 件)       |
| 4  | SARTRAS・法改正・制度理解 (7 件)          |
| 5  | フリー素材・クリエイティブコモンズ・ライセンス理解 (4 件) |
| 6  | 具体例や説明・資料が分かりやすかった (3 件)        |
| 7  | 生成 AI と著作権への理解 (3 件)            |

表 29. 今後対面で受講してみたい F D 研修会のテーマについて

| NO |  |
|----|--|
| 1  | AI 関係(重複回答有)                                   |
| 2  | ICT を活用した教育方法について(重複回答有)                       |
| 3  | PowerPoint を活用した効果的な資料づくり(生成 AI を活用した資料づくり)の演習 |
| 4  | Z 世代といわれる学生との向き合い方など                           |
| 5  | アカデミックハラスメント                                   |
| 6  | アクティブラーニング(重複回答有)                              |
| 7  | コーチング技術について                                    |
| 8  | 今回の内容を再度受けたいと思いました。(重複回答有)                     |
| 9  | シミュレーション教育や、メンタルシミュレーションなどの具体的な教育方法            |
| 10 | デジタルを用いた授業、著作権の使用に問題のないように。                    |
| 11 | ハラスメント関連(重複回答有)                                |
| 12 | モンスターペアレンツへの対応                                 |
| 13 | ルーブリック評価の導入について(重複回答有)                         |

|    |  |
|----|--|
| 14 | わかりやすい・聞きやすいプレゼンについて、スライド作成例など、漠然としたものではなく具体的な方法を教えていただきたいです。                      |
| 15 | 科研費獲得のための申請書作成術  |
| 16 | 学生が作成した媒体を使用する際の著作権等の留意事項  |
| 17 | 学生との対話について   |
| 18 | 学生による授業評価の活用   |
| 19 | 学生の授業に対する価値観とやる気を出す指導について  |
| 20 | 学生の抱える課題やその背景の理解   |
| 21 | 学力が弱い学生への支援  |
| 22 | 研究における「盗用と剽窃」について  |
| 23 | 研究倫理(重複回答有)  |
| 24 | 個人情報保護法について。特に学生の写真などの取り扱いについて   |
| 25 | 公立大学としての地域貢献研究の展開方法。   |
| 26 | 高大連携   |
| 27 | 今回の内容と重なる部分もありますが、授業での動画の視聴や動画の効果的な使い方、実践例について受講してみたいです。あわせて教材研究についても受講したいと思っています。 |
| 28 | 実習指導について   |
| 29 | 授業設計について   |
| 30 | 人事考課   |
| 31 | 他大学における映像権の利用方法  |
| 32 | 入学前教育に関する研修  |

表 30. その他要望・ご意見について

| NO |   |
|----|---|
| 1  | 1度アンケートに入力したのに、していないとなっています。メールアドレスで管理できる設定にさせていただくとこちらも確認ができるのですが、アンケート方法の改良をお願いいたします。                           |
| 2  | 講師に事前に調整を図り、質疑応答の時間を事前に5~10分程度設けて頂けるとありがたいです。   |
| 3  | 講師の先生のご都合もあるかと思いますが、できるだけ早い時期に日程(年月日)をご教示いただけますと幸いです。   |
| 4  | 今後も動画でも視聴できるようにして欲しい。   |
| 5  | 対面での出席ができない場合、オンデマンドでの受講ができるので有難いです。  |
| 6  | 内容が豊富でとても良かったのですが、時間内に説明しきれず割愛する部分もあり、残念に感じました。1回の研修におけるテーマを研修時間に見合う様に絞り込んで、何年かに分けて「シリーズ物」として講演して下さったらよいのではと思います。 |

## 4. 令和7年度 SD・FD委員会 構成員

### 【SD委員会 構成員】

|     |                   |     |    |    |
|-----|-------------------|-----|----|----|
| 委員長 | 看護学科              | 教授  | 柴田 | 恵子 |
|     | 社会福祉学科            | 教授  | 山住 | 賢司 |
|     | リハビリテーション学科       | 准教授 | 大浦 | 佳子 |
|     | 鍼灸スポーツ学科          | 准教授 | 野口 | 恭庸 |
|     | 口腔保健学科            | 教授  | 中山 | 真理 |
|     | 基礎・教養教育研究センター     | 教授  | 村上 | 香  |
|     | 事務局 局長兼図書課長       |     | 上野 | 伸一 |
|     | 事務局 次長            |     | 藤本 | 慎司 |
|     | 事務局 総務課長          |     | 猪本 | 愛  |
|     | 事務局 経理課長          |     | 本田 | 典男 |
|     | 事務局 入試広報課長        |     | 山本 | 亜希 |
|     | 事務局 教務課長          |     | 岩永 | 紗枝 |
|     | 事務局 学生課長          |     | 甲斐 | 強士 |
|     | 事務局 企画課長          |     | 福本 | 直子 |
|     | 事務局 業務改善推進室長      |     | 内田 | 慎吾 |
|     | 事務局 公立大学法人化検討推進室長 |     | 松浦 | 哲  |

### 【FD委員会 構成員】

|     |               |     |    |    |
|-----|---------------|-----|----|----|
| 委員長 | 看護学科          | 教授  | 柴田 | 恵子 |
|     | 社会福祉学科        | 教授  | 山住 | 賢司 |
|     | リハビリテーション学科   | 准教授 | 大浦 | 佳子 |
|     | 鍼灸スポーツ学科      | 准教授 | 野口 | 恭庸 |
|     | 口腔保健学科        | 教授  | 中山 | 真理 |
|     | 基礎・教養教育研究センター | 教授  | 村上 | 香  |

令和7年度 九州看護福祉大学 SD・FD 実施報告書

発行日：令和8年5月21日

発行者：九州看護福祉大学 自己点検・自己評価委員会（SD・FD委員会）

〒865-0062 熊本県玉名市富尾 888 番地

TEL：0968-75-1800